
2019年6月10日(月)	国崎	イサキ釣り	功成丸	ツレと
小潮:旧5/8	満潮11:01(160cm)	干潮17:41(60cm)	満潮24:28(176cm)	鳥羽
イサキ ~36cm (良型が中心)		自分 24尾	ツレ 12尾	
アジ (良型)	自分2尾	ツレ1尾	サバ (良型)	自分2尾 ツレ2尾

10時00分	コンビニで酔い止めを飲む	18時30分	納竿 沖上がり
10時30分	現地着 高速・コンビニ		
11時40分	釣り座抽選	23時20分~2時20分	魚処理3時間
12時00分	出船		

【料金】 乗り合い 9,000円 アミエビ、仕掛け、氷付き 釣り座は抽選

刺しエサのサービスはなくなった。2016年はあった。

※次回は、イカ短を持参しよう。今回、とてもよかった。7mm幅の短冊を持参し、小指の先ぐらいの大きさに切って使う。初めから切っておくより、短冊にして持参の方が扱いやすいであろう。アジを狙うなら、オキアミの方がよいかも…。

【仕掛け】 電動リール 竿受け おもり 60・80・100・120号 (一日100号だった。)

天秤(大型) コマセカゴ(中型:アミエビ用) クッションゴム 直径1.5mm 長さ50cm

良型のイサキがダブルで掛かったがバレることなく、
このクッションゴムでちょうどよいと思う。

サービス仕掛け 国崎 功成丸「イサキ」

イサキ鉤8号 幹糸3号 ハリス3号 枝30cm 枝間60cm 全長1.8m

※魚を絞めるためゴム手袋、ナイフ

※コマセカゴにアミエビをいれるレンゲは備え付けてある。

※付け餌がないので、イカ短とオキアミを持参する。

イカ短の代わりに、小さな白いワームはどうだろうか。

【様子】

○天気予報を見て2日前に予約した。梅雨入りしており予報が変わる。2日前は曇りだったが、当日朝の予報では、午前中曇りで、正午頃から小雨が降り出し、3時頃、雨が強くなり、夕方弱まるであった。

○当日は概ね天気予報どおりであった。うなりもあった。

○釣り座は抽選。客は3グループ。6人、2人、2人で2番くじを引いた。左舷大艫と左舷後ろから2番目に入った。

○うねっていたが、酔い止めのおかげで酔わなかった。しかし、午後4時頃、少し気持ちが悪いと思った瞬間があった。酔い止めを飲んだのが、午前10時で午後4時は6時間後である。酔い止めの効きがなくなったということか。その他にも、4時頃、つり上げた魚を締めて、ずっと下を向いていたこと、お腹が空いていたことも原因であろう。おにぎりを食べたらずし楽になった。ツレはまったく酔わなかったとのこと。

○準備が整い、いよいよ釣り開始というときに、他のお客さんがオキアミを用意し始めた。船長がオキアミを配る様子はない。付け餌は持参するのか…。

○「水深55m、棚は底から5m~10m。初め、リールのカウンタが正しいかどうか分からないから、一度底まで落としてから棚を確かめて。」とアナウンスがあった。

- たまたまオキアミが1つ落ちていた。そのオキアミを一番下の鉤に掛けて投入した。棚は50m～45mである。まずは、底まで落とし、リールカウンターが正しいか確かめた。その後、50mまで巻き上げ、仕掛けがなじんだ頃に、竿をあおってコマセを撒き、竿先を戻しつつリールを2回巻いて、仕掛けを1m巻き上げた。竿先を下に向けて待っていた。仕掛けがなじむ頃に当たりがあった。当たりははっきり分かった。ググーと持って行くまで待ち、電動リールで巻き上げた。よく引く。良型がかかった。
- オキアミの鉤に掛かっていた。鉤に付けたオキアミはなくなっていた。先客がこぼしていったイカ短が一つあったので、それを一番下の鉤に掛けて再投入した。
- 50mまで落とし、先ほどと同様に行った。仕掛けがなじんできた頃に当たりがあった。これも良型だった。
- やはり、付け餌があると、すぐに結果が出る。船長の所へ行って、付け餌はないか聞いた。「付け餌がなくても釣れる」といいながら、先客が置いていったのであろうオキアミを渡してくれた。オキアミは一番下の鉤に半分付ければよいと教えてくれた。ツレにも渡して、再度、釣り始めることにした。
- 続けて、2尾釣った。良型だった。入れ掛かりである。
- ツレが釣れていない。釣り方がはっきりしたので、教えに行った。船が移動となった。
- 「魚礁がありますので60mから下はやらないください。棚は40m～50m付近」とアナウンス。
- 船長がイカ短を少し持ってきてくれた。小指の先ほどの大きさに切って、一番下の鉤だけにつけるとのこと。
- 潮が効いてきた。左舷側から右舷側に仕掛けが斜めに入っていく。釣りにくい。
- 仕掛けが斜めに入っていく。これにより、棚までの距離は変わるはず。50mより長いはず。底まで落とさずに、釣れる棚をさぐり、釣れた棚から、下3mから上2mを探ろうと考えた。50mから1m刻みで40mまで探った。2回ほど試みたところ50mでヒットした。潮の影響にかかわらず棚は50mだった。
- 振り返ってみれば、終日、棚は50m～45mだった。
- 入れ掛かり状態の時間帯があった。50mまで落とし、仕掛けがなじんだら、コマセを撒く。コマセが撒かれたら良いのだから、竿を大きく振り上げるのではなく、竿を2回ほど軽く上げ下げして、リールを2回巻く。仕掛けがなじんでも当たりがなければ、すぐに同様に行く。1～2回行くと必ず当たりがあり釣れてくる。
- ダブルが1回あった。1尾は素鉤に掛かった。良型のダブルだった。下鉤の方が大きかった。ツレもダブルが1回あった。
- イカ短はとても良い。イサキが掛かっても何度も使用できる。
- 初めから、ずっと釣れていたが、夕まずめの時間帯に近づき、当たりが遠のいた。潮が緩んできたからだと思われる。午後4時30分頃から釣れなくなった。
- イサキが鉤にじゃらついているような時があった。よく釣れいているときは、コマセを撒いて1m巻き上げると当たるというパターンだったが、当たりが遠のいてからは、このやり方では釣れなかった。
- 活性が下がったときは、そのまま掛かるまで待つべきだったのではなかろうか。「誘いすぎても釣れない」というこれまでの経験を忘れていた。
- 前回、大きなクーラーボックスを持って行ったとき、船長に「そんなに釣れない」と言われた。25ℓクーラーボックスを持参することにした。万が一25ℓに入らなければ、と思い、もう一つ持って行った。これで良かった。25ℓ1つでは足りなかった。大型を釣りに行くのでなければ、25ℓ2つという方法もありだと思う。
- 家に帰って魚をさばくのに3時間かかった。お腹には卵がぎっしり詰まっていた。36尾中、白子は2尾しかなかった。真子:白子=34:2

【釣り方】

- 「指示棚から3m下へ仕掛けを落とす。仕掛けがなじむのを待つ。なじんだら、竿を大きく振り上げる。竿を戻しつつ1m巻き上げて待つ。当たりがあるのを待つ。なければ、竿を大きく振り上げる。竿を戻し

つつ1m巻き上げる。当たりを待つ。これを繰り返して、指示棚から2m上まで繰り返す。」

○これで当たりがなければ、「コマセを詰めるために巻き上げる。」 または、「もう一度指示棚下3mまで落とし、指示棚2m上まで誘い、当たりがなければコマセを詰めるために巻き上げる。」

○竿を大きく振り上げて、竿を戻しつつ1m巻き上げるのは、撒かれたコマセに仕掛けを同調させるためである。

※竿を大きく振り上げてコマセを撒かなくても、コマセがでるようにゆさゆさと竿を振るだけで良いのではないだろうか。

※仕掛けを1m巻き上げて待つ時間は、棚を探すときには仕掛けがなじむのを待つ程度でよい。活性が高いときもこれでよい。

【2連3連を狙う】

○当たりがあったら、すぐに巻き上げずに追い食いを狙う。

○当たりがあったら、手巻きでゆっくり2mくらい巻き上げる。これにより追い食いさせる。3mを越えたら回収スピードで巻き上げる。回収スピードは、自分はシーボーグ300Jでスピード14、ツレはビーストマスター3000XPでスピード11だった。

※今回は追い食いを狙うというより、確実に当たりを掛けるという感じだった。良型が多く、よく引いたので、2連3連を狙わずにそのまま巻き上げた。

【付け餌】

○イカ短の大きさは、小指の先ほどの大きさである。

○イカ短は硬いことから、イサキが掛かっても取れることはなく、何度でも使うことができた。

○それならば、白く小さな(細い)ワームでも良いのではないだろうか。

○オキアミも半分でよい。ただし、オキアミは外れてしまったり、餌取りが取っていったりするようで、巻き上げてくると、付いていないことがあった。

○アジねらいは、オキアミがいいのだろうか。

○次回、持参すべきは、イカ短、オキアミ、白く小さな(細い)ワームである。